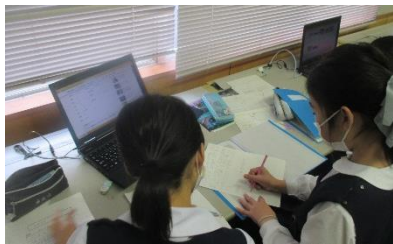


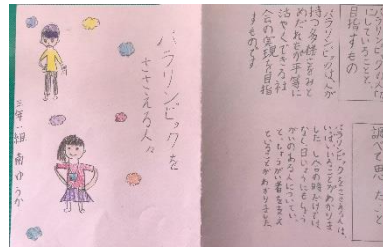


事業実施報告書

道府県・政令市名【島根県】

学校名【松江市立出雲郷小学校】

1 実践テーマ	I・II・III・IV V(複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	5年生 3クラス 83名 (3年生 3クラス 79名)
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名(総合的な学習の時間・国語) ② 行事名(あだかえっ子発表会) ③ その他()
4 目標 (ねらい)	パラリンピックの選手や競技について調べたり、障害者アスリートと交流をしたりする活動を通して、パラリンピックへの興味関心を高めるとともに、スポーツを通して助け合う心や努力する大切さを学び、周囲の人々にそれを伝える。 ・関心を持ち進んで調べる。 ・情報をわかりやすくまとめたり発信したりする。 ・自分の在り方や、自分に何ができるかを考える。
5 取組内容	5年生 総合的な学習の時間「アスリートに学ぼう」 ①パラリンピックって何だろう。 「I'm POSSIBLE」を活用して ②パラリンピックスポーツについて学ぼう。 調べ学習…アスリートの人柄や考え方について ③身近なアスリート「川上さん」との交流会から学ぼう。 ④アスリートから学んだことを伝えよう。 I「あだかえっ子発表会」 心に残ったアスリートの言葉の発表 (今年度の観客は、6年生児童と5年生保護者のみ) II 3年生へのポスターセッション 各自が調べたことを3年生に伝える。 →3年生「パラリンピックについてのリーフレットづくり」
	 <p>※調べ学習</p>  <p>※川上さんとの交流</p>  <p>※3年生への発表</p>  <p>※3年生のリーフレット</p>

6 主な成果	<p>初めは様々な資料から、知識を広げることができた。 調べが進む中でパラリンピックの各種競技への興味というより、アスリートの生き方や考え方について調べる方向に進んでいった。それがあだかえっ子発表会での心に残ったアスリートの言葉の発表へとつながることとなる。</p> <p>また、実際のアスリート「川上さん」との交流会でもその競技への興味というよりは、川上さんの考え方や生きざまに注目することができていた。</p> <p>「川上さんとの交流会の感想から（抜粋）」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「障害は神様からの贈り物」という言葉がすごく心に残っています。目が見えなくても好きなことを続けられれば、幸せなことが起きるということを学びました。 ・ 「落ち込んでも前を向いて進む」ということを話してくださったので、僕も意識していきたい。 ・ 「どうするかは自分次第」という言葉が心に残りました。僕も新しいことに挑戦したいと思います。 ・ 私も結果を出すために、地道なことを繰り返して頑張るということを生かしていきたい。 <p>また、3年生への発表も、ひとりひとりが自分の調べたことから伝えたいことを選び、自分の言葉で伝えるということを重視したせいか、3年生も真剣に聞き、リーフレットづくりに熱心に取り組むことができた。競技のことを伝えるリーフレットに偏らず、選手のこと、パラリンピックを支える人々のことなど、多様なリーフレットができた。</p>
7 実践において工夫した点（事業の特色）	<p>コロナ禍で、学習発表会等の開催が制限される中、本校は、高学年での発表の見せ合い、当該学年の保護者への公開は実施した。それにより、心に残るアスリートの言葉を印象的に広めることができた。</p> <p>また3年生への発表も、個人での発表を少人数に対して行うポスターセッションの方法をとったことで、発表資料を作る5年生の伝えようという意識も高まり、3年生にしっかりと語りかけることができた。</p> <p>またこれらの学習の取組を、学校だよりや学校HPで発信した。</p>
8 主な課題等	<p>このオリパラ推進事業は、児童にとって多きな学びがあることである。特にパラリンピックに携わる人々から学ぶことは大きい。超アスリートの話は教材化などがされているが、今回の地元のパラアスリートとの出会いやその考え方などを学ぶことは、東京で開催されるから、4年に一度の大会があるからではなく、毎年学習ができるようにサポートされるとよいと思う。</p>
9 来年度以降の実施予定	<p>3年生の国語科の教科書にある調べものに関連付け、学年に応じて総合的な学習の時間等で障害と向き合いながら生きていく人たちの学習を取り入れることができるようになることよい。</p>